平和かわら版【平和新聞茨城版】
No.939　2022 5. 5

発行 茨城県平和委員会 https://ibaheiwa.web.fc2.com/
〒310-0912水戸市見川5-127-281　Tel/Fax 029-251-2806
E-mail：i-peace877@silk.plala.or.jp

第3回 飯田美弥子弁護士憲法連続講座 報告

YouTube配信中！

《4月23日》「国家権力とは恐ろしいものである」

4月23日（土）、第3回憲法講座が開催されました。テーマは「憲法…国家権力の横暴を止めるもの」。内容は、「1－刑事と民事の話」など6項目。最後は「まとめ－憲法から自由になろうとする国家権力の側の人たちの口車に乗らない。誰か任せではなく、自分で考えて政治参加する」それが「国民主権」であり「民主政」である、という構成でした。

■今回のテーマのポイントは、「国家権力とは恐ろしいものである。そのことを知ってもらいたかった」「国民が不断の努力で憲法を護ること」「そのためには正気でいること」が大事だと強調する講師の飯田弁護士。「憲法が私たちを護っているなどと、ボーッと言っている場合ではない」と講演後のやり取りの中で、話題となりました。

マルティン・ニーメラー（ドイツ人牧師　1892年～1982年）が語った「ナチスが最初共産主義を攻撃したとき、私は声をあげなかった。私は共産主義者ではなかったから…、そして彼らが私を攻撃したとき、私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった」を紹介。絵本「茶色の朝」（作フランク・パヴロフ　大月書店）も取り上げ、茶色の猫や犬、「茶色新報」以外の新聞など「茶色」以外のものはいっさい存在を許されなくなっていく社会－権力の恐ろしさについて言及しました。

【－感想から－】

○地方自治は明治憲法のときはなかった。国民主権を具現化したものだ。身近な生活の中身を相談出来る市役所が、「市民の窓口を狭める方向になっている」との情報を得ました。特に市政が上位下達ではとんでもない。市民が主人公の市政をつくりたい－とつくづく思いました。（ひたちなか会場）

○ウクライナの戦争以来、核の保有が話題になっています。主人も米国の核共有が正しいという事を言います。北朝鮮も小さい国でも、核を持っているから、攻められないんだと言います。そんな事を考えると恐ろしいです。（日立会場）

■次回4回目（5月28日）、最後のテーマは「戦争は個人の尊厳の最大の敵」。「戦争」が始まって2か月以上経ちました。ロシア軍兵士の士気は下がっているという報道もあります。戦場は「狂気」の世界、地獄でしょう。自民党は敵基地攻撃能力を「反撃能力」と言い換えてまで「戦争」に前のめりになっています。スタンディング等で「戦争ノー」「憲法改悪ノー」を旺盛に訴えましょう。《報告：篠原 睦》

2021年6月から19回の作業を経てついに完成！ 46年ぶり！

百里基地射爆場跡の「自衛隊は憲法違反」の大型看板！

4月23日（土）は、とても暑い日でした。九条の丘に集合して、7人で前回4月9日に立てた8枚の看板を補強する作業を行いました。46年前に建てられた旧看板の土台から出ている支柱の中で、傷んでしまったものを取り替え、継ぎ足す作業です。力仕事ではなかったので、暑さの中でも何とか終わらせることが出来ました。午前中で看板の補強作業も終わり、更新作業が完了しました。

昨年6月26日に作業用の階段用手摺りの設置からスタートし、19回の作業をへて、ついに完成しました。1976年の建立時には今回そのまま使用したコンクリートの土台からつくったのですから、さぞや大変な作業だったことでしょう。高塚惣一郎さん、深谷喜八さん、宮澤昭さん、川井弘喜さんらの熱い思いが今も伝わってくるようです。「自衛隊は憲法違反」を高く掲げてこれからも進んでいきましょう。

次回は、平和公園の草刈りなど整備作業を行います。その終了後に、完成祝賀（昼食）会を予定しています。参加をお願いします。《栗又 衛　百里平和委員会事務局長》

「自衛隊は憲法違反」の大型看板完成記念
―作業と祝賀会―

と　き　5月22日（日）　9時30分～
ところ　百里平和公園　（雨天延期）
内　容　草刈りなど整備作業**「看板完成祝賀会」**
準　備　作業できる服装　○昼食は用意します。
問合せ　栗又 衛 090-2213-8339

憲法と政治権力
今、私たちは何を問われているか

YouTube・facebookにアップしています

前川喜平氏 下妻市講演会

4／17（日）、下妻市で「前川喜平講演会」が開催されました。平和の会しもつま、下妻市民連合を中心とした7団体（希望の会、筑西平和フォーラム、ゆいの会、無煙世代を育てる会、桐ヶ瀬美術館）で構成された実行委員会が開催しました。コロナ禍のため、参加は事前申しこみでしたが、すぐに170人の満席となりました。

安倍政権の中、文科省の事務次官としての思いや自戒、教育に対する深い思いを縦横に語りました。最後に7月の参議院後について触れ、国会の大政翼賛化が進んでいる実態の中、立憲野党が3分の1以上の議席を確保する重要性を指摘しました。

講演内容は、YouTubeにアップされています。「前川喜平下妻講演会」で検索します。また県平和委員会のFacebookページからも可能です。前半（講演）が約1時間30分、後半（質疑）が約50分で、別々にアップされています。

県平和委員会
Facebookページ

寄稿

「ウクライナ戦争について思うこと」

水戸市下国井町1206　大曽根 紀雄（82歳）

私は1940年生まれ、82歳になります。生まれたのは中国東北部、当時「満州」と呼ばれたところ、そこで終戦を迎えました。なかなか日本に帰れず、色々危険なこともあったようですが、敗戦約1年後の1946年の8月、6歳の私、2歳の妹が母に連れられ、やっと貨物船に乗ることができました。船では船底での雑魚寝で、トイレは船端から海に突き出した2本の棒の上から直接海に落として用を足すもので、とても怖かった覚えがあります。舞鶴港に着き、水戸までの夜汽車は、天井のない貨車で、外の景色はみえず星空だけは見えました。水戸は終戦まぎわの大空襲で丸焼け、駅前の銀杏だけ焼け残ったそうです。泉町にあった母の実家も丸焼けで、焼け焦げた材木だけが残っていました。やむなくまだ抑留されて不在だった父の実家、当時の国田村、水戸市郊外の現下国井町に身を寄せました。

国民が皆そうでしたが、海外からの引揚者の生活はとりわけ惨めなもので、食べるものはさつまいもの中に米粒が混じったような雑炊、私は「お母さん、お芋でなくお米のところを頂戴」と母を苦しめたそうです。戦後長く、駅や街の繁華街には、傷痍軍人、負傷して手足を失って松葉杖姿の復員軍人さんがたくさん見られました。

元国田村の歴史の記録「国田史」によりますと、日中戦争以降の村の戦病死者数は127名。当時の村の人口はおそらく3,000人前後、戦死者数はその4％以上に相当します。私の同級生の中にも、父や兄を戦で失った友がたくさんいました。戦争は若者の命だけでなく、銃後の国民も苦しめます。

ウクライナ情勢を見て、「軍備強化が必要だ」という議論、こちらが軍備を強化すれば、必ず相手も強化します。「敵基地を先に攻撃する」という議論、これも相手も負けずに日本の基地を先に攻撃しようとし、「核を共同保有しよう」とすれば、相手も必ずそうするでしょう。これらの安倍元首相や維新の会などが言い出し、岸田内閣も追随する議論は、どろ沼の軍備強化競争です。

集団的自衛という名でアメリカと共に戦う戦争に日本を導きます。絶対ダメです。国際紛争を解決する手段としての戦争を永久に放棄し、国の交戦権、一切の武力を放棄した日本国憲法の道しか、紛争解決の道はないと信じます。これを実現しつつある東南アジアの動きに日本も加わるためには、自公政権を倒さねばなりません。そのために頑張りましょう。